

地曳網（冬季調査）

●12月18日(日) 明石市・江井ヶ島海岸

今日は11月に強風、雨天で中止・順延していた魚住沖浅場でのアマモ株移植(11/23)および地曳網(11/27)を並行して行うことにしました。

天候は晴れで、太陽の日差しで暖かく、穏やかな一日で、野外でのイベントでは最高です。

8時半に現地に着くと、海岸をみると、ユニフォームを着た子ども達がソフトボールの練習をしています。しかし、それ以外には人が見られず、海岸を散策される人もいません。年の瀬で正月を迎える準備に忙しく、皆さん外出を控えておられるのでしょうか。予想はしていましたが、地曳網が大変です！

海岸線をみると、アオサが大量に打ち寄せられています。これも、地曳網には困りものです。



アマモが密生している西側スパン



アマモが疎らな東側スパン

とにかく、軽トラックから荷物を降ろして準備です。



軽トラックから荷物を降ろし、作業準備

9時過ぎにはスタッフ、ダイバーの方々も来られ、打合せの後、地曳網チームとアマモ株移植チームに分かれ、それぞれの準備に入ります。

地曳網チームはアマモが疎らな東側スパンでの地曳網の準備です。地曳網に必要な資器材を運び、地曳網を設置します。



網をゴムボートに載せ、沖合に



網を落とし、うまく展開していることをダイバーが確認

11 時前には地曳網の準備も完了！しかし、応援して頂けるよう呼びかける人がいない！そこで、スタッフだけで予定通り 11 時に地曳網を曳くことに！

片側 4 人の曳き手で地曳網を砂浜に引き上げましたが、やはりアオサがかなり入っています。その場でアオサを注意深く除去し、網に残ったものを円筒形の容器に入れ、西側スパンの階段護岸に運び、そこで生き物の選り分けを行いました。



網を砂浜に引き上げ



大まかにアオサを除去し、残りを容器に

選り分けはいつも応援してくれた子ども達やご家族連れに行ってもらおうのですが、今日は難しく、スタッフと採捕生物の説明をして頂くためにお越し頂いた神戸市立須磨海浜水族園・吉田園長さん、モリエコロジー(株)・森代表取締役のお二人で行いました。寂しいですが、仕方ありませんね！



生き物の選り分け



最後に残ったものは底生生物調査の篩で

この選り分け作業中に、アマモが密生している西側スパンでの地曳網の準備をしており、選り分け作業後に小休止をして、引き続き網を曳きました。曳き手が足らず、この後は記録写真を撮ることもできませんでした。このため、選り分けた生き物の説明もなしとし、吉田園長、森代表は生き物の同定作業に！



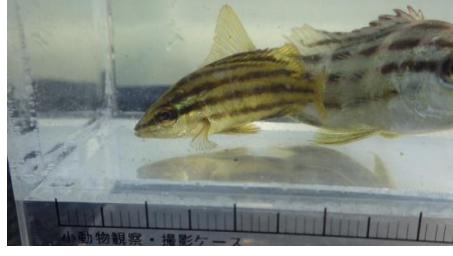

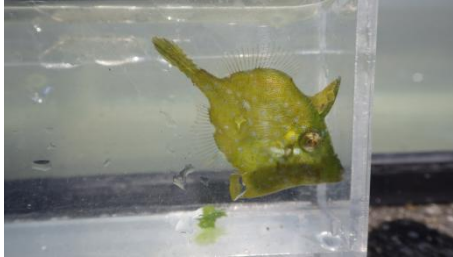

すべての作業を終え、遅い昼食を摂り、後片付けをして 2 時前に地曳網チームは解散としました。

本当に大変な一日で、疲れました！！

さて、採捕できた生き物は以下の通りです。

水温が下がる冬場は、生き物は水深が深い場所に移動するためでしょうか、種数は少ない結果です。

		採捕生物					
アマモ場 (西側)	ヨウジウオ	カサゴ	ニジギンボ	アミメキ	クサフグ		
アマモ場なし (東側)	シマイキ	クサフグ					

	<p>冬季 ヨウジウオ</p>		<p>冬季 カサゴ</p>
	<p>冬季 シマイサキ</p>		<p>冬季 ニジギンボ</p>
	<p>冬季 アミメハギ</p>		<p>冬季 クサフゲ</p>

最終更新日：平成29年1月20日